

## 長島未来プロジェクト

～ 環境デザインによる地域再生の実践的研究 ～

### NAGASHIMA MIRAI PROJECT

Practical Research on Regional Revitalization by Means of Environmental Design

長濱 伸貴	芸術工学部環境デザイン学科	教授
遠藤 剛生	芸術工学部環境デザイン学科	特別教授
齊木 崇人	芸術工学部環境デザイン学科	教授
小浦 久子	芸術工学部環境デザイン学科	教授
川北 健雄	芸術工学部環境デザイン学科	教授
山之内 誠	芸術工学部環境デザイン学科	教授
萬田 隆	芸術工学部環境デザイン学科	准教授
畑 友洋	芸術工学部環境デザイン学科	准教授
長野 真紀	芸術工学部環境デザイン学科	助教

Nobutaka NAGAHAMA	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Professor
Takao ENDO	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Distinguished Professor
Takahito SAIKI	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Professor
Hisako KOURA	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Professor
Takeo KAWAKITA	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Professor
Makoto YAMANOUCI	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Professor
Takashi MANDA	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Associate Professor
Tomohiro HATA	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Associate Professor
Maki NAGANO	Dept. of Environmental Design, School of Art and Design, Assistant Professor

#### 要旨

地方都市を対象として、地域の調査や分析などによる課題の抽出を行い、環境デザイン、建築、まちづくりなどからの解決策の実践的な提案を行ない、少子高齢化社会や持続可能型社会に向けた地方都市の創生（地域再生）のあり方を提言するデザイン手法論を研究することを目的とする。岡山県瀬戸内市長島の国立ハンセン病療養所の保存と再生をテーマとし、地域の現地調査・分析、現地WSなどを踏まえて、長島全体の将来計画を提案する。また、瀬戸内海沿岸地帯・島嶼部の視点から、長島を拠点とした裳掛地区全体のまちづくり構想も提案する総合的な地域再生デザインである。長島未来プロジェクト（本研究）は、両園の将来構想を基調に「長島全体の将来構想」に係る環境デザインからの構想計画を提案すること及びその実現に向けた活動に取り組むこと、並びに今後、長島の将来構想を計画へと具体化する段階で関係者の議論に供することにより、構想の実現に資することを目的とする。更に、長島を拠点として瀬戸内沿岸地域・島嶼部一帯が連携した地域再生の取組みを進めることにより、“長島入所者の想い”を未来につなぎ、瀬戸内沿岸・島嶼部一帯の活性化に寄与することに本プロジェクトの意義がある。

#### Summary

The aim of the research is to, at first, based on the surveys and analysis of the study area, detect the challenges, which will be followed by practical proposal of the solution strategy that encompasses environmental design, architecture as well as community development. The practical proposal of our research is a design methodology which tackles with phenomena of regional city revitalization in the context of low birth rate, aging society and sustainable society. Under the topic of preservation and regeneration of the National Hansen's Disease Sanatorium in Nagashima (Setouchi City, Okayama Prefecture) and based on regional field survey, analysis, workshops etc. we will propose future plan of Nagashima Island as a whole. Furthermore, from the point of view of the Seto Inland Sea coastal zone and the islands, and with Nagashima Island as a base, the entire district of Mokakechiku will be included in the comprehensive community development plan within the regional city revitalization design concept.

The research of Nagashima Mirai Project encompasses several main objectives. First is the proposal of the environmental design conceptual plan based on the theme of “Future vision of Nagashima as a whole“, followed by the implementation activities and the inclusion of the stakeholders by sharing the findings of the research during the realization of the plan phases, and lastly by advancing and promoting the regional revitalization of Seto Inland Sea coastal zone and the islands, our research project is to bring forth the “Nagashima residents’ spirit” and tie it to Nagashima’s future.

Main research project and its objectives are devised to make a significant contribution to revitalization of Seto Inland Sea coastal zone and the islands zone as whole.

## 1. 研究の背景と意義

岡山県瀬戸内市長島は、我が国初の国立ハンセン病療養所が建設された。その後特効薬により病は完治したが、隔離政策は1996年「らい予防法」廃止まで続いた。現在、長島愛生園、邑久光明園には、入所者400余名、平均年齢85歳。殆どの方が、社会復帰は困難で、終の棲家として生活している。ハンセン病問題基本法が2008年に成立し、患者であった人の被害回復、差別、権利侵害の禁止と共に、入所者が地域社会から孤立することなく安心して豊かな生活を営むことや、療養所施設を公共団体、住民が利用する措置を講じることが示された。

「長島愛生園将来構想」、「邑久光明園将来構想」が2011年策定された。両構想は、入所者に十分な療養と生活環境を確保し、施設の開放、地域住民との交流などと共に、長島全体の将来のあり方が検討され、入所者の意向として、1)生活の質が向上する対策、2)納骨堂の恒久的維持管理、3)人権学習の場としての整備、4)ハンセン病政策の歴史を語る人権の島として位置づけ、5)瀬戸内に浮かぶ美しい島の景観形成など8項目が示されている。しかし、これらの理念を現実の計画として実現していく道筋は示されていない。

長島未来プロジェクト(本研究)は、両園の将来構想を基調に「長島全体の将来構想」に係る環境デザインからの構想計画を提案すること及びその実現に向けた活動に取り組むこと、並びに今後、長島の将来構想を計画へと具体化する段階で関係者の議論に供することにより、構想の実現に資することを目的とする。更に、長島を拠点として瀬戸内沿岸地域・島嶼部一帯が連携した地域再生の取組みを進めることにより、「長島入所者の想い」を未来につなぎ、瀬戸内沿岸・島嶼部一帯の活性化に寄与することに本プロジェクトの意義がある。(図1)

## 2. 研究計画(長期的な目標像)

長島愛生園、邑久光明園の入所者が望む人権学習の場としての整備、ハンセン病政策の歴史を語る人権の

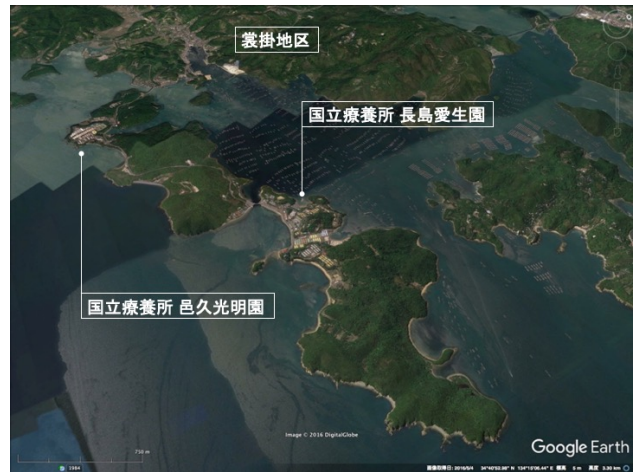


図1. 研究対象エリア

島として位置づけ、瀬戸内に浮かぶ美しい島の景観形成など“入所者の想い”を将来の長島に実現し未来に継承していくため、地域資源(長島ハンセン病療養施設の他、地域の歴史文化、自然風土・社会環境、立地条件等)を発掘・再発見し、入所者との意見交換やワークショップなどを通して長島全体の将来構想を環境デザインからの構想計画として、グローバル(Global+Local)な視点を踏まえた提案づくりを目指す。

同時に、ワークショップ成果の地元関係者への発表や、構想計画を具現化するランドアートイベントなどの取り組みも検討を行っていききたい。合わせて、長島との関係が深い地元の周辺地区との連携を図り、地域全体の活性化に取り組むことも目指したい。

また、研究活動とともに、本学大学院の「地域再生デザインプログラム」及び環境デザイン学科の「環境デザインプロジェクト」などの教育活動との連携を図って行きたい。

## 3. 研究体制

本研究は、総合的な地域再生デザインを対象とする環境デザイン手法論の研究であり、長島の将来構想は、裳掛地区にとどまらず、瀬戸内沿岸地域・島嶼部の再生に大きな役割を担うものと考えられる。よって、長島未来プロジェクト(本研究)においては、環境デザイン、まちづくり、ランドスケープ、建築、リノベーション、アートなど各分野の本学専門家の参加が求め

